

令和6年度「人権の花」育成記録

光市立浅江小学校

浅江小学校では、これまで、地域の方々と共に、ニジガハマギクの保護に努めてきました。本年度市の天然記念物に指定され、浅江の宝の一つとして、ますます大切にしていきたいと思っています。現在は、学校の山、潮音寺山の麓や、学校の門周り、学校の遊び場、命の森などに、定植して、多くの人の目に触れるものとしていっているところです。

ニジガハマギクの定植は、4年生が毎年度取り組んでおり、活動を引き継いでいます。

本年度も、4月から浅江コミュニティ協議会の方々と打ち合わせをしながら、挿し芽の日を、6月5日、定植の日を、10月3日と決め、準備に入りました。

ニジガハマギクについて、市立図書館で借りた本や協議会の方々にいただいた資料で学んだり、昨年度経験した5年生に教えていただいたりしながら、知識や関心を高めていきました。



昨年度のことを習う

挿し芽の会の前日には、協議会の方々の指導の下、各クラスの代表児童が、ニジガハマギクの茎の中から、まっすぐ伸びているものを選び、上から30センチ程度をはさみで剪定し、水を張ったバケツに入れておきました。



挿し芽づくり

当日には、児童による司会進行で、協議会の方々と参観に来られた保護者の皆様と一緒に実施しました。

協議会の方々は、朝早くからすぐに植えられるようにと、土、ポット、10センチ程度にカットされた挿し芽を、用意されていました。適度に土を入れたポットを、バケツの水にドボンとつけ、たっぷりと水を土にしみこませた後、割りばしで2か所穴をあけて一本ずつ挿し、土をかぶせました。自分の名札を付け各クラスごとに、かごに入れました。

それからは、直接日光の当たらない場所に置き、水が切れないように、またやりすぎないように、毎日あるいは2日に1回あげていきました。中には、枯れてしまったり、バッタに葉を全て食べられたりしたものもありましたが、その都度、挿し芽を追加して対応してきました。

定植の当日は、協議会の方々の指導の下、ポットから取り出した苗を、穴をあけていただいた花壇の畝に植えていきました。児童は、みんな、これからの満開の花を楽しみにしながら、水やり、草引きなどの活動への意欲を高めていました。



苗の定植